



こころもがたに こん  
**衣ヶ谷古墳**

平成20年5月、岸和田市三ヶ山町の道路工事現場から「山を重機で削っていたら、大きな石が出てきた。」と大阪府教育委員会に通報がありました。急いで現地を確認したところ、まさしく古墳の横穴式石室の天井石が露出して、急遽、発掘調査を実施しました。

調査の結果、横穴式石室（全長約6m、敷居近くの床幅1.1m、高さ1.2m）を有する7世紀初頭に造られた一辺約10mの方墳であることがわかりました。

石室の天井石は6枚で、石材は大半が地元で産出する花崗岩を用い、一部は砂岩（川原石）を積んでいます。石室内からは副葬品として消患器（杯身、杯蓋、高杯、壺）、土師器（杯身、杯蓋）、木棺に使われた釘、耳飾（金環）が出土しました。

衣ヶ谷古墳は典型的な7世紀の古墳ですが、この時期の古墳が少い泉州地域では大変貴重な資料であることから、石室の一部（玄室）を移築、復元しました。

大阪府都市整備部岸和田土木事務所  
 大阪府教育委員会

▲玄室から入口方向をみる  
 ▲衣ヶ谷古墳出土の遺物群（土師器）



古墳